

(穢)即ち前者は神にささげる物や日に対する言葉であるが、後者は人のつかうもの或は日常の物や日という意味で、常用したケグワイの音便的なずれかも知れない。後の考え方は窪田空穂翁からの示教である。記して感謝の意を表する。まとめると

現在

イ ( <i>Juncus</i> ) .....	イ
クワイ (一次) .....	クロ (黒) グワイ .....
( <i>Eleocharis edulis</i> ) .....	クログワイ
	エ ケ (穢) グワイ → エグ (死語となる)
( <i>Sagittaria</i> ) .....	クワイ (二次) .....
( <i>Lycoris</i> ) .....	クワイ
	シロ (白) グワイ .....
	シログイ, シロエ, シログ
	(方言として残る)
	.....ヒガシバナ etc.

のような名の変遷が過去の植物利用の変遷の跡をとどめているとみるのである。

(東京大学理学部植物学教室)

### 〇ロツコウキバナコツクバネ (檜山庫三) *On Abelia serrata* var. *viridiramea* Makino

ロツコウキバナコツクバネは牧野先生が摂津国六甲山での採品に命名されたもので、これは新枝や葉柄が緑色で赤褐色とならず、また葉の表面が暗紫色をおびるようなことがない点で常品のコツクバネウツギ (キバナコツクバネ) から区別された。この植物の記載に用いられた材料と思われる標本が牧野標本館に収められている。点数は 9 点で、「摂津六甲山 V 1936」とあるだけで植物名の記入はないが、1 点ごとに「青」と書いた紙片が挿入されているので、これがアオコツクバネ (後出) であることに間違いはないと思う。この標本と同時に六甲山で採集されたコツクバネウツギの標本 13 点も一緒にあるが、これには「青」と書いた紙片は入っていない。両品を比較してみると今日では標本による枝色の識別は不能であつた。本種は葉や花の大小にかなりの変異が見られるためにコツクバネウツギを小形品に、キバナツクバネウツギを大形品に当てて区別もされているが、これには中間形が多く (ここに記する標本もまた中間形である)、両形ははっきりしているというほどのものではない。さて、*Abelia serrata* Sieb. & Zucc. の原記載を見ると、これはロツコウキバナコツクバネであつて、ただ葉と花が少し小形なものであるにすぎないことに気づいた。したがって学名の上からはコツクバネウツギの方が区別されねばならないから、これを *forma colorata* Hiyyama として取扱いたい。*forma serrata* に対する和名としてはロツコウキバナコツクバネ (牧野日本植物図鑑 103. 1940) よりも更に古くアオコツクバネ (牧野 ex 山鳥吉五郎: 六甲山, 摩耶山植物

目録 22. 1937, 名のみ) の名があり, またアオコツクバネウツギ (牧野, 実際園芸 26: 1086. 1940) とか, ロッコウコツクバネ (牧野 ex 山鳥: 六甲山の植物 52. 1944) と呼ばれている。また *Abelia serrata* Sieb. & Zucc. var. *viridiramea* Makino の名は裸名として前記山鳥氏の目録 (1937) に出ている。

***Abelia serrata*** Sieb. & Zucc., Fl. Jap. 1: 76, t. 34 (1838) forma *serrata*

*Aeblia serrata* var. *viridiramea* Makino, Ill. Fl. Nipp. 103 (Oct., 1940); Hara Enum. Sperm. Jap. 2: 36 (1952)—*Aserrata* var. *viridis* Makino in Jissai-Engei 26: 1086 (Nov., 1940).—*A. serrata* forma *viridiramea* (Makino) Murata in Hyogo-Seibutsu 3: 271 (1958), comb. nud.—Nom. Jap. Ao-kotsukubane, Rokko-kibanakotsukubane.

forma *colorata* Hiyama, nov. f.

Rami petiolique imprimis novellis fuscirubrescentes, folia supra interdum atripurpurascentia.

Nom Jap. Kotsukubaneutsugi, Kibanatsukubaneutsugi.

Hab. Hondo: Mt. Rokko, Prov. Settsu (May, 1936—T. Makino)—holotype in Makino Herbairum.

□文部省: **Index Speciminum Typicorum in Herbariis, Japonensibus, pars Bryophyta** 日本学術振興会 169 ページ (1960 年 3 月) 650 円

数年前に学術資料分科審議会のタイプスペシメン調査部会が全国にあるタイプスペシメンの所在の調査を始め, それぞれ専門の委員によつて調査を実施し, できたものから順に出版しているが, 昨年 2 月のシダ植物の部に続いて今回「コケ植物の部」が出た。服部新佐・野口彰両氏の編集になるもので, 学名と出典, タイプスペシメン, 種類, 産地とその保管場所などが列記されてある。発売所は丸善。(伊藤洋)

□黒川喬雄: **伊賀地方産植物目録** (三重県立上野高等学校所蔵標本目録) 三重県立上野高等学校, 154 ページ (1960 年 2 月) 頒価 450 円 送料 35.

黒川喬雄氏は昭和 28 年 3 月古稀の齢に達し長い間, 勤務された上野中学校 (現在上野高等学校), また崇仁中学校の教壇を去られた, 氏の多年にわたっての腊葉標本を上野高等学校に寄贈された。上野高等学校は氏を講師として, 本目録を調製することを委嘱し, 上野高等学校生物学教室の入交健久, 村憲一両氏の協力があって, 黒川喬雄氏の記念出版として本書が出版された。本目録は保存が確立された腊葉標本とあいまって郷土の学問, 教育のみならず広く日本の学界に貢献するものと思う。(木村陽二郎)